

輪田泊

播磨國
高砂泊

室泊

墨吉乃スミキノ得名津爾立而見渡者六兒乃泊從出流船人

〔土佐日記〕九日〇承平五年二月こゝろもとなさにあけぬから船をひきつゝのぼれども河の水なればるざりにのみぞゐざる此間にわたの泊のあかれのところといふ所あり〇下

〔高倉院嚴島御幸記〕さるのとき〇治承四年三月二十一日に高砂のとまりにつかさまふよもの舟ども礎

おろしつゝ浦々につきたり御舟のあし深くて湊へかゝりしかばはしふね三そうをあみて御輿かきすへて上達部ばかりにて御舟に奉りし

〔播磨風土記揖保郡〕室原泊所以號室者此泊防風如室故因爲名

○按ズルニ室原泊ハ三善清行ノ封事ニ檀生泊トアリ即チ室泊ニ同ジ

〔源平盛衰記七〕成親卿流罪事

大納言ハ死罪ヲ宥ラレテ流罪ニ定リヌト聞エケレバ相見事ハ堅カリケレ共是ハ小松内府ノヨク〜入道〇平清盛ニ申給タルニコソ〇中略月名ニシオフ明石ノ浦エイ崎林崎小松原高砂ヤ尾上ノ松モ過ケレバ室ノ泊ニ著給フ〇下略

〔山槐記〕治承三年六月廿二日己酉今夕前太政大臣殿〇平清盛自伊都伎島令還向給云々〇中略御共侍

民部大夫政清曰〇中略十一日未明出御船〇高倉已刻過室

〔高倉院嚴島御幸記〕むまのとき〇治承四年三月二十二日かたぶきし程にむろのとまりにつき給山まはりてそのなかにいけなどのやうにぞみゆるふねどもおほくつきたるそのむかひにいゑじまといふとまりありつくしへときこゆる舟どもはかせにまがひてあれにつくよし申むろのとまりに御所つくりたり御舟よせておりさせ給御ゆなどめしてこのとまりのあそびものどもふるきつかのきつねのゆふぐれにばけたらんやうに我も〜と御所ちかくさしよすもてなす人もなければまかり出ぬ